

# 第47回 高知女子大学看護学会

Web  
開催

参加費  
無料



メインテーマ

## 人生百年時代の 看護の SHIFT (シフト)

日 時 : 令和3年7月17日(土) 10:00~15:30  
(9:00~Web入場開始)

配信場所 : 高知県立大学 池キャンパス

主催 : 高知女子大学看護学会

共催 : 高知県立大学看護学部同窓会・高知県立大学

後援 : 高知新聞社、RKC 高知放送、NHK 高知放送局、エフエム高知、  
KSS さんさんテレビ

## 学会長 あいさつ

COVID-19の世界的パンデミックから1年と半年以上がたちました。昨年、感染拡大防止の観点から、多くのイベントや学会が中止となる中、第46回の高知女子大学看護学会もやむなく中止の決断をいたしました。当初は、「次の学会こそは対面で」と考えておりましたが、今年になってもCOVID-19の状況は落ち着く気配を見せず、企画の内容を若干変更して、第47回の学会をWebにてどうか開催できる運びとなりました。これもひとえに、皆様のお力添えのおかげと、深く感謝しております。

さて、第47回高知女子大学看護学会は、第45回からのテーマを引き継ぎ『人生百年時代の看護のSHIFT(シフト)』をテーマに開催いたします。科学技術の進歩と生活環境の改善により、2007年生まれの2人に1人が103歳まで生きる「人生百年時代」が到来し、長寿を享受することが可能になりました。先進国のなかでも、日本は世界に先駆けて「人生百年時代」に突入すると現実味をおびて予想されています。このようななかで、専門職者は、真剣に人生百年時代に向けて、人々と協働して準備することが求められています。とくに、想像を超えるテクノロジーのイノベーションの波の中でSociety5.0社会を生き抜いていくためには、しっかりと未来を予測して、新たな領域の知識と技術の開発に果敢に挑戦していくことが喫緊の課題です。看護学が、人生百年時代を視野に入れて、看護実践・看護研究・看護教育をどのようにシフトしていくか、どのようなシフトを起こしていくかについて、ひとりひとりが専門職としてどう対峙していくかを、模索し主張していくことが求められています。

今年は、熊田孝恒先生にお願いし、「人の心とAI」というテーマでご講演を行っていただきます。予想もしなかった世界的パンデミックは、テクノロジーの進化を加速させたとも言われております。福祉医療分野でも、ますます存在感を増しているAIと、我々看護職者は今後どのようにつきあっていくのか、この講演を通して考えていくヒントを得られればと思っております。

また、午後からは4つのワークショップと1つの特別企画を予定しております。ワークショップでは、高齢化先進県高知で始まり、展開されているユニークな4つの取り組み—「生きづらさを抱える人の農作業を通じた社会参加～農福連携～」 「地域包括ケアシステムにおける入退院支援事業」 「乳幼児期からの発達障害児等への早期療養支援」 「卒業生のキャリアデザイン」—をご紹介します。同時に特別企画として、「コロナ禍におけるこころのケア」を開催いたします。ここでは今全世界で起こっている現象の中での、看護の役割や看護の力をみなさんと一緒に確認できればと考えおります。

高知女子大学看護学会は、会員の皆様方の参加を得て、新たな看護の「知」を創造していく学会に発展するよう努めてまいりました。今年の学会は、不自由さの多い今だからこそ、多くのみなさまに、「知」にふれていただきたいと、参加費無料での学会を開催しております。

ご参加いただいた看護職の皆様、保健医療の専門職の皆様、学会員・同窓生の皆様、今後も高知女子大学看護学会の歩みを温かく見守っていただきますよう、宜しくお願い申し上げます。

令和3年7月

高知女子大学看護学会

会長 野嶋佐由美

# 学会 プログラム

---

7月17日(土)

9:00～ Web 入場開始

10:00～ 開会の辞

学会長あいさつ

運営委員長あいさつ

10:15～ 講演会

## 「人の心とAI」

講師：熊田 孝恒先生

(京都大学大学院 情報学研究科

知能情報学専攻 心理情報学分野教授)

12:00～ 学会総会

13:30～ 特別企画・ワークショップ

### ■特別企画

#### コロナ禍におけるこころのケア

話題提供者：中井 有里 (社会福祉法人ファミリーユ高知

精神看護専門看護師)

米花 紫乃 (地方独立行政法人堺市立病院機構

堺市立総合医療センター 精神看護専門看護師)

コーディネーター：久保 博美 (社会医療法人近森会近森病院

精神看護専門看護師)

田井 雅子 (高知県立大学看護学部 教授)

## ■ワークショップ1

### 生きづらさを抱える人の農業作業を通じた社会参加～農福連携～

話題提供者：公文 一也（高知県安芸福祉保健所 主幹）

コーディネーター：野口 裕子（高知県中央西福祉保健所）

久保田 聡美（高知県立大学看護学部 教授）

## ■ワークショップ2

### 地域包括ケアシステムにおける入退院支援事業

話題提供者：竹松 節子（高知県立幡多けんみん病院）

コーディネーター：加藤 昭尚（高知開成専門学校 教員）

森下 安子（高知県立大学看護学部 教授）

## ■ワークショップ3

### 乳幼児期からの発達障害児等への早期療育支援

話題提供者：岩崎 史明（特定非営利活動法人土佐の風

児童発達支援事業所とさっちくらぶ）

コーディネーター：松村 晶子（高知大学教育学部附属小学校 養護教諭）

高谷 恭子（高知県立大学看護学部 准教授）

## ■ワークショップ4

### 卒業生のキャリアデザイン

話題提供者：小松 愛友（高知県幡多福祉保健所 保健師2年目）

岩本 幸大（高知県立大学看護学研究科博士前期課程

看護師5年目）

田中 あさぎ（高知県宿毛高等学校 養護教諭2年目）

山下 智里（高知赤十字病院 助産師3年目）

コーディネーター：森本 紗磨美（高知県立大学看護学部 助教）

神家 ひとみ（高知県立大学看護学部 助教）

# 講演 要旨

## 人の心と AI

講師：熊田 孝恒

京都大学大学院 情報学研究科  
知能情報学専攻 心理情報学分野

人工知能（AI）技術の発展に伴い、様々な形で AI そのもの、あるいは AI によって生み出されたものが、我々の生活の中に浸透しつつある。AI を搭載した音声スピーカーやバーチャル空間のアバター、AI を搭載した人型ロボット（いわゆるアンドロイド）などが家庭にも普及し始め、人に代る役割を担おうとしている。将来的には、これらは、実際の福祉施設等での介護やオンラインでのカウンセリングなど、これまで人が担っていた役割にとって代わる可能性すら秘めている。このような将来像を描くとき、AI は人の心を理解できるのだろうか、人が他人と接するのと同じように、AI は人と接することができるのだろうか、AI と人は共感できるのだろうか、といった様々な疑問が湧いてくる。ここでは、そもそも人はどのように他人と接しているのか、他人をどのように認知し、理解しているのか、どのような情報を互いにやりとりしているのか、といった人間の認知、言語・非言語のコミュニケーション、他者理解、共感などの基本を脳科学と心理学の知見に基づいて解説するとともに、AI 技術の現状も紹介しながら、上述の疑問について考えてみたい。

### 【略歴】

筑波大学大学院博士課程心理学研究科修了。教育学博士。専門は認知心理学、心理情報学。

2007 年 独立行政法人産業技術総合研究所 人間福祉医工学研究部門  
研究グループ長

2012 年 4 月-現在 独立行政法人理化学研究所 脳科学総合研究センター  
連携ユニットリーダー

2013 年 4 月-現在 京都大学大学院・情報学研究科 教授

著書に『マジックにだまされるのはなぜか』（単著、化学同人、2012）、『商品開発のための心理学』（編者および分担執筆、勁草書房、2014）など。

## 特別企画

### コロナ禍におけるこころのケア

話題提供者：中井 有里（社会福祉法人ファミリーユ高知

精神看護専門看護師）

米花 紫乃（地方独立行政法人堺市立病院機構

堺市立総合医療センター 精神看護専門看護師）

コーディネーター：久保 博美（社会医療法人近森会近森病院

精神看護専門看護師）

田井 雅子（高知県立大学看護学部 教授）

Covid-19 の感染症は、看護が大切にしてきた、こころとからだをケアするという看護の基本をこの不確かな社会状況の中でどう実現していくかを私たちに問いかけています。Covid-19 による社会活動の制限は、私たちの日常に急激な変化を巻き起こし、人々のこころとからだのバランスの維持を難しくさせています。それ故に、こころのケアの必要性は高まる一方と言えます。

今回は、コロナ禍という不確かな状況の中でも、これまで積み上げられた知見と高度看護実践、そしてネットワークを融合して展開される2つの実践例について、リエゾン看護師としてご活躍の米花さんと、中井さんのお二人にご紹介いただきます。

米花さんには、変化の狭間で揺れる自殺企図者の置かれている状況を洞察し、こころの声を聴き、よりよく生きることへ導く急性期病院でのこころのケアの実践例を紹介していただく予定です。中井さんには、日々変化する医療の第一線で、患者ケアにエネルギーを注ぐ看護師に生じている、様々なジレンマや疲弊感を、今ある資源を柔軟に変化させてチームで分かち合い、癒し合うというチームアプローチの実践例を紹介していただきます。

このような実践例を通して、未来を見据えたコロナ禍におけるこころのケアについてみなさんと考える機会をもてればと思います。

## 生きづらさを抱える人の農作業を通じた社会参加～農福連携～

話題提供者：公文 一也（高知県安芸福祉保健所 主幹）

コーディネーター：野口 裕子（高知県中央西福祉保健所）

久保田 聰美（高知県立大学看護学部 教授）

農福連携は、高齢化によって労働力の不足が課題となる農業と、障害者の活躍の場を開拓しようとする福祉が連携しようとするwin-winの取り組みとして全国で展開されています。しかし、この取り組みは必ずしも成功しているわけではないという現状も耳にします。その中で、独自の広がりを見せる高知県安芸市の取り組みが、今、全国的に注目を集めています。

安芸市モデルの特徴は、農福連携が、生きづらさを抱える人たちの支援システムの中のいち事業でしかないということだと考えます。人を知る人、地域を知る人、仕事を知る人、システムを知る人が協働して、網の目のようなネットワークを作り、いくつかの事業をもつシステム全体を運営している…これが安芸モデルです。今回は、安芸福祉保健所の公文さんに、安芸モデルのシステムの全体像と、そのシステムの中で、農福連携に参加した人たちがいきいきと働く姿をご紹介します。

その人たちの姿を通して、生きづらさを抱える人を支援するってどういうことなのか、支援システムが機能するってどういうことなのか、考える機会をもてればと思います。

## 地域包括ケアシステムにおける入退院支援事業

話題提供者：竹松 節子（高知県立幡多けんみん病院）

コーディネーター：加藤 昭尚（高知開成専門学校 教員）

森下 安子（高知県立大学看護学部 教授）

この取り組みは、平成22年「地域と病院が協働で取り組める入退院支援システムを！」という卒業生の提案で始まりました。事業は、大学と保健所、市町村、病院の参加を得て、その仕組みづくりをスタート！ 高知県の委託を受け、平成28年には「地域・病院・多職種協働型の退院支援の仕組みづくりガイドライン」が作成されました。その後はガイドラインの普及、啓発だけでなく、ガイドラインを活用して病院の入退院支援体制の構築および、入退院支援・入退院調整を担い、かつ地域のコーディネーターとなる人材を育成するための相談支援や研修を行っています。

現在までに、この事業には、多くの病院、保健所、市町村が参加して下さっております。今回は、その中から、幡多けんみん病院のみなさんにおいでいただき、「急性期～回復期～在宅へとシームレスな地域・病院・多職種協働型入退院支援体制の構築」を目指した具体的な取り組みをご紹介します。高知県から発信する、高知県ならではの入退院支援システムについて、みなさんと一緒に考える機会がもてればと思っております。



## 乳幼児期からの発達障害児等への早期療育支援

話題提供者：岩崎 史明（特定非営利活動法人土佐の風

児童発達支援事業所とさっちくらぶ）

コーディネーター：松村 晶子（高知大学教育学部附属小学校 養護教諭）

高谷 恭子（高知県立大学看護学部 准教授）

子どもの発達には、乳幼児期の子どもと家族にとって重要課題と言えます。そのため、家族を含むチームで乳幼児期から子どもの発達の特徴をつかみ、発達支援を行うことは、子どもの育ちを高め、家族内外の交流を活性化して地域での生活への適応性を高めることが期待できます。

今回は、乳幼児期に行っている早期療育支援を発達という視座から捉え、児童発達支援事業所とさっちくらぶの岩崎さんにその活動をご紹介します。

子どもの発達では、姿勢や運動、認知や適応、言語や社会から成る発達の相互作用を促すことが重要とされています。生活の中で、発達の相互作用を促す複眼的なアプローチとはどのようなものなのか、具体例を盛り込みながらお話しいただきます。そして、子どもの発達に不安を抱える家族が、地域の中で孤立しないように家族が受け取れる形に工夫されたアプローチなど、エビデンスと工夫に裏打ちされた先進的な取り組みも豊かにお話しいただきます。これらのアプローチは、療育地域連携の上に成り立つものです。このような福祉と医療連携において看護が果たす役割についてみなさんと考える機会がもてればと思います。

## 卒業生のキャリアデザイン

話 題 提 供 者 : 小松 愛友 (高知県幡多福祉保健所 保健師 2 年目)  
岩本 幸大 (高知県立大学看護学研究科博士前期課程  
看護師 5 年目)  
田中 あさぎ (高知県宿毛高等学校 養護教諭 2 年目)  
山下 智里 (高知赤十字病院 助産師 3 年目)  
コーディネーター: 森本 紗磨美 (高知県立大学看護学部 助教)  
神家 ひとみ (高知県立大学看護学部 助教)

看護学部では、看護師、保健師、助産師、養護教諭の専門職者を育成するカリキュラムがあります。卒業生は大学での学びを、それぞれの実践の場で生かしておられることと思います。そこには、対象の方に応じて、知識や技術を組み合わせ、基本と応用を行き来しながら展開される実践があるのではないのでしょうか。このような知識や技術を展開する経験の積み重ねが布石となり、卒業生お一人お一人の将来設計につながっていることと思います。

今回は、保健師、助産師、看護師、養護教諭の高知県内で活躍する卒後2～5年目の卒業生の方々をお招きしています。それぞれの専門職の立場から、大学生から社会人へと歩みを進める中での経験談や、困難を乗り越えるための知恵と工夫を共有する機会を持ちたいと思っています。そして、それぞれのキャリアデザインにおける、将来の展望についてもぎっくばらんに語り合いたいと思っています。